

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 I III 】
2 実施対象者	<p>学校名 千葉県立矢切特別支援学校</p> <p>対象学年 全校児童生徒</p> <p>人数 114名</p> <p>交流相手 地域のスポーツクラブ（11、12名） 近隣高齢者施設（10～12名） 近隣小学校①（第3学年62名） 近隣小学校②（特別支援学級21名） 地域の老人会（10名） 大学生（11名）</p> <p>「やきり de ボッチャ」外部参加者 約70名</p>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名（ 体育、総合的な学習の時間、学活 ） ② 行事名（ 障害者スポーツを通じた交流活動 ） ③ その他（ オリンピック・パラリンピック教育 ） <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名（ 「やきり de ボッチャ」 ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<p><障害者スポーツを通じた交流活動を通して、心の成長を育む。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会を目指し、障害者理解を広げながら、お互いにかかわり方を学ぶ。 ・パラリンピックへの関心を高めながら参画し、スポーツに取り組む。
5 取組内容	<p>【障害者スポーツを通じた交流活動】</p>  <p>今年度本校では、オリンピック・パラリンピック教育推進校と合わせて、「障害者スポーツを通じた交流活動」というテーマで県の研究指定を受けていた。障害者スポーツとして「ボッチャ」を題材にし、学部ごとに交流相手を決め、交流活動に取り組んだ。</p>

交流活動では、誰でも取り組みやすい障害者スポーツである「ボッチャ」を交流のためのツールとしたことで、障害の有無や年齢にかかわらず、一緒に楽しむことができた。また、交流活動を通して、本校の児童生徒に対する理解や障害のある人に対する理解を広げる機会となり、「心のバリアフリー」の実現につなげることができた。

【やきり de ボッチャ】



本校主催で、夏季休業中に地域とのボッチャ交流会として「やきり de ボッチャ」を実施した。地域の方々をはじめ、近隣の小中学生や高齢者施設の方々など、外部から約70名程度の参加があった。

多くの方々に参加をしてもらえたことで、本校の児童生徒に対する理解が深められた。ゲストアスリートとして千葉県をはじめ、日本や世界大会で活躍している選手を招聘し、選手の技や技術を見てもらったことで競技として「ボッチャ」を知ってもらう機会にもなった。

【オリンピック・パラリンピック教育】

オリパラ給食



12月～2月に月1回、オリパラ給食として、オリンピック・パラリンピックにちなんだ給食の献立を実施した。

ここ数年の開催国をテーマに決め、12月は2014年のソチでロシア料理、1月は2016年のリオでブラジル料理、2月は2018年の平昌で韓国料理とした。

中学部と高等部の給食委員会がオリパラ給食の紹介として掲示物を作成・掲示したり、給食が出る1週間前から給食時間中に、その月の国の音楽を流したりした。

他国の料理を味わう機会やオリンピック・パラリンピックへの関心が高まるきっかけにつながった。

職員：「東京五輪音頭」

まずは全職員に対し、東京五輪音頭の紹介を行い、取り組みそうな学級や学部で行った。今年度は、全校で踊る機会が持てなかったため、来年度に向けて少しずつ取り組める学級を増やした。来年度は、全校で取り組めるような機会を設けていきたい。

トップアスリート等活用事業

2月にトップアスリート等活用事業として、千葉県体操選手との交流会を実施した。目の前で様々な体操の動作や技を見ることができ、トップアスリートの凄さや体操のおもしろさを知る機会となった。また、直接選手の方々と関わったことで、オリンピックやパラリンピックを身近に感じることもできた。

小学部：「東京2020大会」マスコット選定の投票

「東京2020大会」のマスコット選定の投票に本校の小学部も参加した。児童が選びやすいよう3候補のイラストや説明文が載ったものを各クラスに掲示したり、動画を見たりして投票を行った。クラスごとにそれぞれ気に入った候補を選ぶようにし、その場でどの候補を自分のクラスが選んだのか、他のクラスはどの候補を選んだのかを分かるように結果を全校児童生徒が見ることができる場所に掲示した。

小学部6年生：修学旅行

修学旅行において、東京都江東区にあるパナソニックセンターへ行き、オリンピック・パラリンピックの体験展示を体験・見学した。オリンピック・パラリンピックについて学習することができ、学習した内容については、保護者や下級生へ報告をした。

高等部：体育

5月に行われた、やきりスポーツフェスティバルにおいて、高等部全生徒を4チームに分けリレー大会を行った。リレー大会に向けて、リオオリンピックの陸上競技の映像を見たり、日本代表選手の“アンダーハンドパス”を練習したりした。本番では、練習した成果があり、“アンダーハンドパス”で見事にバトンを渡す生徒がいた。また、1位になったチームは“ウィニングラン”も行った。

高等部：体育委員会

2020年東京オリンピック・パラリンピックにて、千葉県で開催される競技について調べ、掲示物の作成を行った。また、競技（ゴールボール）について簡単な体験も実施した。

高等部：社会科の授業

パラリンピックについて学習を行った。パラリンピックの紹介か

	<p>ら、グループに分かれてそれぞれにテーマを決め、調べ学習と掲示物の作成に取り組んだ。掲示物については、全学部が目にするところに掲示し、パラリンピックへの関心が高まるようにした。</p> <p>高等部：生徒</p> <p>ポスターとして「ボッチャ」のイラストを描き、パラリンピックに関する作品展へ出品した。</p>
6 主な成果	<p>【障害者スポーツを通じた交流活動】・【やきり de ボッチャ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰でも取り組みやすい「ボッチャ」をツールとしたことで、障害の有無や性別、年齢に関係なく、誰でも平等に「ボッチャ」を楽しむことができた。また、障害者スポーツを通じた交流を行うことで本校の児童生徒に対する理解が広がったことで「心のバリアフリー」の実現や共生社会の実現に向けての一步となった。 <p>【オリンピック・パラリンピック教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、様々な競技種目に興味を持つことができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>【障害者スポーツを通じた交流活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知的障害のある児童生徒が取り組みやすいようにルールや活動内容の工夫をしたことで、児童生徒が主体的に交流活動に取り組むことができた。 <p>【やきり de ボッチャ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の理解を広げると共に、地域で暮らす市民として参加者同士の交流も行うことができるよう、参加者の所属を関係なくミックスしたチーム編成で試合を行った。 <p>【オリンピック・パラリンピック教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校に在籍している児童生徒がオリンピック・パラリンピックを身近に感じられるように、オリパラ給食や体育の授業等がかかわりがあることが分かるようにした。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> 「やきり de ボッチャ」の開催に関しては、「是非来年度もやってほしい」という声が多く、場所や時期等どのように取り組むか課題が挙げられた。 年間計画を立て、計画的に実践していくこと。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> 東京五輪音頭 ボッチャ以外のパラリンピック競技の体験 オリンピック・パラリンピック教育の年間計画